

授業概要

本講義は、幕末・維新期の日本の歴史を取り上げる。特に徳川封建体制から明治の近代国家への変革のプロセスについて、時代を揺り動かした人物や政治勢力および事件・出来事などに焦点をあてながら講義する。授業では、西洋からの外圧によってもたらされた衝撃とその克服への試みが、日本の近代化の方向性を決定づけたことを明らかにしていきたい。

なお、適宜ビデオ教材も使用しつつ、授業内容への理解を深めていくこととする。

授業計画

第1回	授業の進め方の説明
第2回	ペリー来航の衝撃と幕府の対応
第3回	和親条約と通商条約
第4回	大老井伊直弼の登場
第5回	尊王攘夷論の台頭
第6回	幕政改革
第7回	攘夷の決行
第8回	八月十八日の政変
第9回	公武合体政権の成立と亀裂
第10回	禁門の変と第一次長州征討
第11回	条約勅許
第12回	薩長同盟と第二次長州征討
第13回	大政奉還と王政復古政変
第14回	明治新政府の近代化政策
第15回	岩倉使節団と文明開化
第16回	筆記試験

到達目標

日本の歴史のなかでも人気の高い幕末動乱期を中心に、国際社会との接触によってもたらされた近代国家成立への変革の歴史を学びながら、日本の近代化の特質を理解することを目指す。

履修上の注意

- (1) 日本近代史の基礎知識をある程度備えていることが望ましいが、少なくとも歴史に興味のある学生の受講を強く期待する。
- (2) 遅刻 3 回で欠席 1 回と見なす。

予習・復習

- (1) 授業で取り上げるテキストの箇所は、授業内容を理解しやすくするためにも、毎回必ず事前に読むなどの予習を徹底すること。
- (2) 授業の理解度をチェックするための小テストを適宜実施するので、復習を心がけること。

評価方法

学期末試験〔論述形式〕(70%)と小テスト(30%)の合計点で成績評価を行う。

テキスト

『幕末史』佐々木克、ちくま新書